



ロータリー：
変化をもたらす

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ



会報

2017 ▶ 2018
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

親睦と奉仕で作る友の輪

会長／森 幹雄 幹事／阿部 洋一

プログラム

- 本日
理事・委員長退任挨拶
- 次週予定
役員退任挨拶

会員誕生日
佐々木 繁

配偶者誕生日
宮尾 美穂

No. 2784
第37回 6月13日

出席報告

前例会

会員総数	36名
出免会員	4名
出免出席	3名
基準会員出席	18名
出席率	60.00%

前々例会

第34回 5月16日

欠席会員	14名
内メイクアップ	6名
修正出席率	76.47%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

- 5月18日留萌ロータリークラブ細則に関わる諮問委員会が開催されました。

👥 委員会報告

- 芦別ロータリークラブ、砂川ロータリークラブより6月例会プログラムが届いています。
- ガバナー事務所より、9月7日公開の「ブレス〜幸せの呼吸」という映画の紹介がございました。後ほどチラシを回覧いたしますが、ポリオから生き残った人が主人公の映画で、国際ロータリーが配給元の角川と調整して本編、ホームページ、ポスターなどに協力者としてロータリーとエンド・ポリオ・ナウを表示していただく事になっているようです。

留萌には映画館がありませんが、頭の片隅にでも入れていただければと思います。

- 2510地区広報IC委員会から、ロータリーの事をよく分からない会員向けのツールとしてパンフレットを作成しました。後ほど皆様にお配りいたします。
- 千歳ロータリークラブより創立50周年の式典に対する礼状をいただきました。回覧いたします。

👤 ニコニコBOX

- 先日はIMに参加頂きありがとうございました。森(幹)会長
- 6月8日は44回目の結婚記念日です。44年間楽しい結婚生活でした。これからも夫婦仲良く暮らしていきます。二ノ宮会員

- 先日開催した社会奉仕事業、通園センターでのケーキ作り大変ご苦勞様でした。私事です
が、先日開催された高校野球春季大会で、長男のふうがが、スタルヒン球場でツーランホームランを打ちました。ありがとうございます。
青山会員
- 誕生日祝いありがとうございます。山本会員
- 先日のIMでは皆様の応援をいただき、ありがとうございます。
燕会員

前 回	774,079円
今 回	13,000円
累 計	<u>787,079円</u>

プログラム・・・・・・・・

《社会奉仕事業報告》

青山 青少年委員長

まずは、先日開催したケーキ作りに、多くの会員の皆様にご協力いただきました。ありがとうございます。通園センターの子供達も大変楽しく、満面の笑顔でケーキを食べていたと思います。

さて本日のプログラムですが、当初通園センターのセンター長さんにお話をさせていただく予定でしたが、仕事の都合で来られなくなりましたので、私の方から通園センターについての紹介をしていきたいと思います。

皆さんに参加していただいたケーキ作りは、未就学・小学校に上がる前の子供達で、約30名弱の子供達が参加をしていました。学部は他に小学部・中学部がありますが、主に発達障害が主の子供達でございます。障害と言っても色々ございます。見た目には分からないですが、小さい時は同じですが、小学校・中学校に上がるにつれて、普通の子供健常者が出来る事が、少し遅かったり、出来なかったりする子供が通う所でございます。現在留萌市では、この通園センターに通う子供達が増えています。未就学と小学部の世帯が80世帯ほど留萌通園センターに通っています。

通園センターというものが出来て、現在の場

所で行われて20~30年になり、前高橋留萌市長が新設という形で沖見小学校跡に移設すると約束をされましたので、来年度以降ケーキ作りを開催していただく場合は、沖見町に出来る新しい施設になると思います。実は、私がこの通園センターに関わる様になったのは私の娘もこの通園センターに通っていたためで、現在は旭川の鷹栖高等養護学校に通ってしまして3年生になります。中学校からこの鷹栖養護学校にお世話になっておりますが、未就学の時と小学部の時に、この通園センターに通わせていただきました。

この頃の通園センターは、港北保育園と一緒にございまして、健常者の子供達と障害を持っているグレーゾーンの子供達が一緒に遊ぶ場所でもありまして、発達障害の中でも軽い子供、障害者でも軽い・重いと色々ありますが、比較的軽い人たちがグレーゾーンと呼ばれていまして、少し訓練をしたら健常者の子供と同じ育ち方をするのではないかとと思われる子供達を、健常者の子供達と一緒に仲良く遊ばせる形をとっていました。学校が終わった後に通園センターに通ってきて、言葉の教室や体感を鍛えるゲームや運動をしたりして、健常者の子供達、港北保育園の子供達と一緒に遊んでいましたが、今から12年くらい前に港北保育園が無くなってしましまして、通園センター独自の会館になりました。通園センターでは、港北保育園と一緒に夏祭りを開催しておりましたが、港北保育園が無くなり、通園センター単独で開催する事になって、おやじの会という会を立ち上げて、引き受ける事になりました。その後ずっと夏祭りを開催し、私もおやじの会に参加しております。

年々参加者が増えて、当初はミニミニ夏祭りとしてやっていましたが、現在は普通の夏祭りに名前が変わってしまいました。おやじの会では年に1回の夏祭りと秋には収穫祭を開催していますが、この収穫祭とは小平町の農家の方の協力で、子供達がジャガイモの収穫を手で掘り起こしてみたり、トウモロコシをもいでその場で湯がいて食べたりと、みんなで和気あいあい

WEEKLY REPORT

とした収穫祭を開催していました。家庭に負担を掛けないようにと一家族1500円で芋掘りをして、トウモロコシをもいで茹でて食べて、ジンギスカンを食べて、ジュースを飲んで、最後にお菓子をもらって帰るという予算で行っていましたが、皆様方の事業所さんからの寄付もいただいております、何とか開催しておりましたが、初めはバス一台で済んでいたものが、現在はバス二台を用意しなくてはならなくなりました。

私もセンターには時々顔を出しますが、子供達が楽しく遊んでいるのを見るとうれしく思います。ロータリークラブで寄付した、ゲームのウィーも大変役に立っているそうです。今年11月に沖見町の方に通園センターが移る予定で、遊具も新しくなると言っていましたので期待しております。次年度もロータリークラブの皆様にご支援いただけるのであれば、ぜひ特別支援学級と合わせてお願いをしたいと思います。

現在、障害を持った子供達が通う学校は、留萌市においては小学部しか受け入れ先が無く、中学部でも通園センターに通う事は出来ますが、障害の重い子どもはなかなか受け入れが出来なく、実際私の子供も、障害と言っても頭の障害と体の障害があり、療育手帳を2通持っていましたので、本来中学位迄は親元で一緒に居たかったのですが、それも叶わず、小学校は潮静小学校に通わせていただきましたが、中学校からは旭川の鷹栖養護学校にお世話になる様になりました。親としては少し寂しく、小学校の時には私が子供の手を引っ張って学校まで一緒に通っていたのですが、それが叶わなくなってしまうました。ただ、養護学校ですから先生方は大変素晴らしい先生ばかりでしたので、安心して預けられて寂しいですけど安心もしました。

私事ですが、私の娘はレッド症候群という病気で、遺伝子欠落の病気で、レッド症候群の病気は女の子しかいない病気で、男の子はこの病気にはなりません。レッド症候群はレッド博士が発見した病気で、遺伝子の21番が欠落している病気だそうで、生まれる前から欠落していますが、6ヶ月～1歳6ヶ月位までに発症する病気だそうです。私の子供も1歳位にパパ・マ

マと言葉を話すのが早かったのですが、親ばかりでパパを先に言ったと嫁と子育てで喜んでいたのですが、ある日を境に娘が言葉を発しなくなり、調べたらこの様な病気だとわかりました。この病気は話が出来なくなったり、歩けたのが歩けなくなったりと後退していく病気で、発症が早ければ寝たきりだったり、言葉も話せないという病気です。ただ私の娘はレッド症候群の中でも程度が軽い方でしたので、一緒に歩いたり軽い運動をしたりと、全介助です。常に付き添って生活をしていました。現在は運動がなかなか出来ないで、ご飯を食べさせる時に注意をして下さいと先生から言われており、食べさせると笑顔で食べるので、親としては食べさせたいのですが、太ると体重がなかなか減らないと先生に注意を受けた事もあります。娘は話す事も出来ませんので伝達手段がありません。こちらの方で気が付いてやらなければ、お腹が空いたとか、のどか湧いた、トイレ、なども言えませんので、こちらの方で察知しなければなりません。トイレの方に行ったらトイレに座せたりと、だいたい朝6時位に一回起きて、自分も一緒に起きてトイレに連れて行ったりして、私自身何時も寝不足になっていました。今、自分の子供の詳細を話させていただきましたが、留萌市には養護学校がございません。小学部を卒業してそれからどこへ行くか分からないというのが、通園センターに通っている子供の現状です。私の子供は現在養護学校の3年生で、卒業後にどこへ行くかまだ決まっておりませんが、今のところ秩父別に施設が出来ましたので、そこへ行かせようか考えています。まあ施設と言うよりケアホームという感覚で、一つの施設に障害を持った人たちが集まり、3～5人位の人で生活を共にします。娘が笑顔でそこへ行っていますので、来年はそこへ行かせようかと考えています。

留萌市の現状と致しまして、養護学校などの施設もなく、生活をする場もありません。田中会員さんにその様な施設を作っていただければと思います。留萌市は障害者に対しての理解度認知度が低いと感じています。前高橋市長や前

第36回 5月30日(水) 天候/晴

石塚道議に「留萌に養護学校には出来ないのですか？」と尋ねましたが、「旭川の養護学校の分校ならば」という答えが返ってきました、東光小学校や留萌小学校、潮静小学校などに分校という形であれば出来る可能性があると言っておりますが、実際、養護の先生と普通の学校の先生とは全然ちがいますので、スペシャリストの先生が必要です。経費予算の関係上大変厳しいというのは私自身も十分承知しております。今回通園センターが新しくなりますが、通園センターで行われるのは主に言葉の学級になります。

す。発達障害の子供でも色々ありまして、見た目には全然分からない、得意分野・不得意分野がハッキリしていたりと、極端な子供もおります。今回新しくなりますので、色々な意味でますます良くなっていただければとも思っています。

ロータリークラブの皆様にはケーキ作りや体感機器など、色々ご協力いただいております。今後とも通園センターの運営等にご支援ご協力を切にお願いし、本日のプログラムに代えさせていただきます。

* 3分間情報 *

現在のロータリーには二つの奉仕理念があります。その一つは職業奉仕理念「He profits most who serves best 最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」であり、もう一つは人道的奉仕活動の理念とされる「Service above self 超我の奉仕」です。

He profits most who serves best はシェルドンが提唱したフレーズです。1910年に開催された第一回全米ロータリー・クラブ連合会で最初に語られた時は He profits most who serves his fellows best でしたが、1911年のポートランド大会ではロータリー用に付随して入れられた his fellows という句が外されて、元来の He profits most who serves best というフレーズになってロータリー宣言の結語として採択されました。

シェルドンの森を巡る旅に参加するための最初の条件は、ロータリーには二つの奉仕理念がありますが、シェルドンが提唱したのは He profits most who serves best と云う経営学に基づく奉仕理念であり、Service above self は後から作られた「詠み人知らず、意味不明」な付随的な理念であることを理解することです。

Service above self は誰がいつ作ったものかは定かではありませんが、このフレーズの原型となったのは、ミネアポリス・クラブ二代目会長で、果物卸売業のフランク・ベンジャミン・コリンズが1911年のポートランド大会で語った Service, not self です。

この言葉はフランク・コリンズが提唱した言葉だと信じている人が多いようですが、すでにミネアポリス・クラブに定着していた Service, not self という言葉を、1911年のポートランド大会のエキスカージョンとして開催されたコロンビア川をさかのぼる船旅の中で行われた即興演説の中で、たまたまコリンズが引用したに過ぎません。

このフレーズを社会奉仕のモットーだとか、高い宗教性を持ったものとか、果ては「自己滅却の奉仕」「無私の奉仕」などと説く人がいますが、コリンズのスピーチ原稿を精査すると、この解釈にはかなり無理があるようです。

ミアポリス・ロータリー・クラブ25周年記念誌には、ミネアポリス・ロータリー・クラブは1906年に設立されたミネアポリス・パブリシティ・クラブを母体にして創立されたことが記載されています。どうやら、この Service not self というフレーズはこのパブリシティ・クラブから引き継がれたものだと思います。ミネアポリス・パブリシティ・クラブは広告の自主規制と相互扶助を目的とした180名ほどの会員を擁したクラブでした。1910年に創立されたミネアポリス・ロータリー・クラブに大半の会員が移籍して解散寸前の状態になりますが、その後再興して「ミネソタ広告連盟 Ad Fed MN」となり現在に至っており、2005年に創立100周年のお祝いをし、2017年現在も健全な活動をしていることがウェブ・サイト上から見られます。